

開設講習名	【選択必修】世界の言葉は英語だけじゃない！ 児童・生徒の視野を広げる活動		講 師	山本 冨里	
講習会場	山口大学吉田キャンパス		会場所在地	山口県山口市	
開 設 日	平成 29 年 7 月 16 日		時間数	6 時間	受講予定人数 25 人
受講者募集期間	平成 29 年 4 月 7 日～平成 29 年 4 月 15 日		履修認定時期	平成 29 年 8 月 10 日まで	
主な受講対象者	小学校・中学校・高等学校教諭, 養護教諭, 栄養教諭				
受講料等総額	6,000 円	(うち受講料以外の経費)			
取り扱い事項	国際理解及び異文化理解教育				
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語形式や複数言語の社会的共存を観察するための、基本的な視点を獲得。 ・言語が社会的にどのような意味を持ってきたのか／持たされてきたのかということについて知り、そこに働いている基本的な力学を理解できる。 ・児童生徒が世界／日本の言語の多様性を意識し、様々な言語への興味・関心を高められるような授業を考案できる。 ・児童生徒が様々なリソースを活用しつつ、自律的に言語を学んでいく手助けができる。 					
<p>【講習の概要】</p> <p>この講習では、「グローバル化に対応した言語学習」について検討したうえで、言語学習／教育／習得に賭けられているものについて、社会的・歴史的事例から述べる。また、言語多様性をどのように管理・促進しようとする動きがあり、どのような課題が見られるのかを紹介する。最後に、欧州で開発された CARAP(言語と文化の多元的アプローチ)を参考に、おなじ内容を表す複数の言語を音や文字で比較する＋見知らぬ言語の絵本を(知的に)読んでみる、といった活動を行い、そうした活動を学校教育活動にどのように活かせるのかを議論する。</p> <p>—講習の計画—</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)「グローバル化に対応した言語学習」とは 2)言語学習／教育／習得に賭けられているもの: 価値づけられた言語とさげすまれた言語＋踏み絵として／烙印として／抵抗の手段としての言語＋言語が社会的にどのような意味を持ってきたのか 3)言語多様性の促進と管理: 共同体のレベル＋個人のレベル 4)児童・生徒の視野を広げる活動を考える—多様な言語への取り組みから(※): おなじ内容を表す複数の言語を音や文字で比較する＋見知らぬ言語の絵本を(知的に)読んでみる＋そうした活動を学校教育活動にどのように活かせるか、を議論する <p>※4)の活動は、欧州評議会_欧州現代語センターで開発された CARAP(言語と文化の多元的アプローチ)を参考にしています。</p>					
<p>【評価の方法・評価基準】</p> <p>評価の方法: 筆記試験</p> <p>評価基準: 合格: 世界の言語の多様性を活かした授業を考案できる。不合格: それ以外</p>					
<p>【テキスト・参考文献】</p> <p>事前にテキスト(資料)を配布予定。</p>					
<p>【受講者への伝達事項】</p> <p>この講習は、児童生徒に、世界／日本の言語の多様性を意識させよう、様々な言語への興味・関心を高める学校教育活動を考えようとする先生方を歓迎します。講習名を「世界の言葉は英語だけじゃない！」としましたが、講習参加には、英語の知識も、その他の言語の知識も、とくに必要ではありません。小中高の先生方と一緒に、どのような授業を作っていけるのか、とても楽しみにしています。</p> <p>ノートパソコンやタブレット端末をお持ちであればご持参ください。(当日は少しだけ使いますが、なくても問題ありません)</p>					